

＜過去 1 週間の動き＞

(8 月 5 日～8 月 11 日)

USD/ZAR: 14.3375～14.9000
ZAR/JPY: 7.44～7.64 (参照値)

過去 1 週間の南ア・ランド相場は、断続的な下押しを繰り返し、ほぼ一方的に下落。11 日のドル全面安局面で、漸く小幅に反発した。ランド下落の主因は、ラマポーザ大統領による内閣改造(5 日)。内閣改造自体は従前から予想されていたし、事前の予想では、①実績の上がらない閣僚を更迭 ②大統領側近で主要閣僚を固め ③各種改革の推進力を増すとの読みで、実現すれば南ア経済に前向きとの期待感の方が強かったはず。タイミングが予想よりも些か早かったと見た向きもあるが、市場の虚を衝いたのはムボウエニ財務相の辞任。同相は、広く「南ア財政健全化の要石」と見られ市場の信頼も厚かった。後任のゴドングワナ与党アフリカ民族会議(ANC)経済改革委員長も、ANC の重鎮、ラマポーザ大統領側近、経済政策通として広く知られた人物とのことだったが、「誰が後を引き継いだとしても、ムボウエニ財務相程厳格な財政政策運営はできない」との読みが、ランド売りを誘ったようだ。それでも、同人事発表直後の急落を除けば、ランドの値動きは抑制が効いていた。8 日夜には、南ア電力公社(Eskom)の大型火力発電所で爆発事故があり、この事故も週明け 9 日以降のランド続落に少なからず貢献したものと考えられた。並行して、金、プラチナなど貴金属が、底割れ/急落したことも、ランドには売り圧力を加えたことだろう。逆に、10 日に前後した貴金属反発は、ランド反発を促したはずだし、12 日に発表された米 7 月 CPI(市場予想に沿った内容だったものの)を受けて米長期金利が低下、ドル全面安に振れたことも、ランド反発には寄与した模様。

＜過去 1 週間に発表された主要経済指標等＞

月日	GMT	指標	期間	発表	予想*	前回
8/6	6:00	総外貨準備高(USD)	7 月	54.46bn	54.60bn	54.47bn
8/10	11:00	製造業生産(前年比)	6 月	+12.5%	+14.7%	+36.3%r
8/11	9:30	企業景況感指数	7 月	93.2		96.2

(*予想はブルームバーグ社予想中心値)

＜向こう 1 週間の見通し＞

(8 月 12 日～8 月 18 日)

USD/ZAR: 14.450～14.850
ZAR/JPY: 7.45～7.60

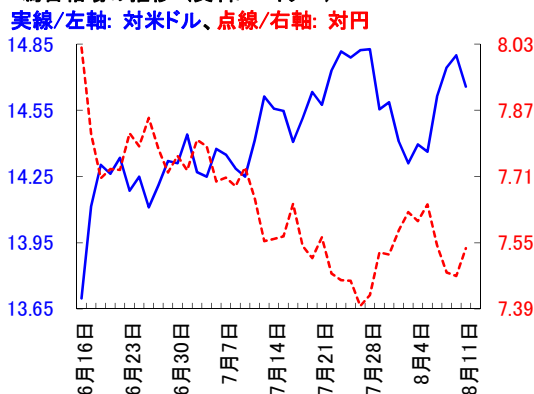
向こう 1 週間の南ア・ランド相場は、方向感の交錯した横ばいを予想。確かに意表は衝かれたものの、ムボウエニ財務相辞任は、ラマポーザ大統領との対立などが原因ではないし(注 1)、同相自身が、以前から辞任の意向を漏らしていたと言う(注 2)。更に、同相は、公務員労組との賃金交渉を(政府に有利な条件で)片付けたばかりであり、今にして思えば、辞任のタイミングとしては、これ以上の好機もなからう。同賃金交渉で激しい応酬が交わされた可能性は想像に難くなく、政治的資本を大概使い切ったであろう同相に代わって、組合出身のゴドングワナ委員長を後任に据えるあたり、いかにもラマポーザ大統領らしい采配と言える。内閣改造に期待された上述項目①～③は、ひと通り実現されたと評価することはできるが、詳細を見ると、更迭が予想された閣僚(注 3)を留任させたり、更迭した閣僚を別の閣僚ポストにつけたり(注 4)、中途半端な印象も受けないではなかった。これも、党内融和を優先した、ラマポーザ大統領らしいバランスの取り方と、好意的に解釈することができよう。一方で、ランド反発を素直に見込めないのは、足元のドルの底堅さに警戒感が解けないから。パウエル議長が何度否定しようとも、通貨市場は米連銀による早期金融緩和撤回に賭けたがっているように見える。今現在も、今月末のジャクソンホール(注 5)で、同議長が金融政策の方針転換(金融緩和縮小)を打ち出すとの観測が、ドルの下支え要因になっている。上述米 7 月 CPI も、弱いと言うよりは、予想通り、むしろ気持ち強めの数字と読むこともできたはず。それでも、敢えて調整的なドル売りを見る値動きに、逆に、市場がドル買いにつんのめっている(常にドルを買いがっている)様子を読み取ることができるようになる。

＜向こう 1 週間に発表予定の主要経済指標等＞

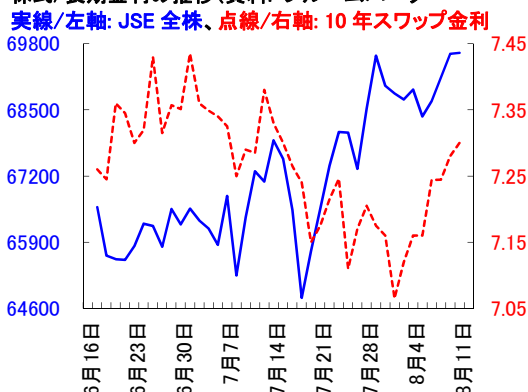
月日	GMT	指標	期間	発表	予想*	前回
8/16-8/20		鉱業生産(前年比)	6 月		+22.2%	+21.9%
8/18	8:00	CPI(前年比)	7 月			+4.9%
	11:00	小売売上高(前年比)	6 月			+15.8%

(*予想はブルームバーグ社予想中心値)

為替相場の推移 (資料: ロイター)



株式/長期金利の推移 (資料: ブルームバーグ)



南アフリカ関係主要経済指標

政策金利(レボ金利)	3.50%
長期金利(10 年スワップ) 8 月 11 日	7.300%
株価指数(JSE 全株) 8 月 11 日	69617.16
成長率(GDP/前年比) Q1	-3.2%
経常収支(ZAR) Q1	+267bn
失業率 Q1	32.6%
消費者物価(前年比) 6 月	+4.9%
小売売上高(前年比) 5 月	+15.8%
製造業生産(前年比) 6 月	+12.5%
鉱業生産(前年比) 5 月	+21.9%
貿易収支(ZAR) 6 月	+57.7bn
金価格(ロンドン 17:00) 8 月 11 日	1751.40

(注 1) であるならば政策運営の継続性が期待できる

(注 2) 本人が民間部門への復帰を希望していたというし、辞任の噂は度々巷間に上がっていた

(注 3) 例えば、ツェレ警視總監に対し、今般の暴動鎮圧失敗の責任が問われるものと見込まれていた

(注 4) 文字通りの reshuffle

(注 5) 8 月 26～28 日のカンザス連銀経済シンポジウム

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。